

子宮頸癌の最近の知見



社会医療法人全仁会 倉敷平成病院
脳ドックセンター検査部長

光井 行輝

私は元々産婦人科が専門で、現在当院の平成脳ドックセンターで主に婦人科検診に従事しています。その様なわけで今回は婦人科のなかでも最も重要な疾患のひとつである子宮頸癌について、最近の話題などを紹介させていただきます。

最近になりわかったことで最も画期的なことといえますと、なんといつてもその原因がHPV(ヒトパピローマウイルス)というウイルスであることが判明したことです。このウイルスはもともと外陰部などのイボの原因となるごくありふれたウイルスとして知られていたもので、一般の女性が生涯で約70〜80%くらいの確率で感染すると言われています。もちろんただ感染したからといって全員が癌になるわけではなく、そのなかでごくわずかな人だけが持続的な感染となり発癌にいたると言われています。したがって普通の日常生活をおくっていても、このウイルスの感染を防ぐことは残念ながらできないと言えます。



しかし近年このウイルスに対するワクチンが開発され、欧米の先進諸国では当初より実用化され、遅れて日本でも数年前から接種が始まりました。接種開始当時は費用も自己負担で、投回数3回、総額が5万円くらいかかるという高額な負担のためでしょうか、なかなか普及するまでにいたりませんでした。そのためなんとか公費負担にできないものかという働きかけが実り、その後中学1年から高校1年までに相当する年齢の女子に対して公費助成による無料接種が行われるようになりました。なぜこの年齢なのかという理由については、このワクチンがまだHPVに感染していない初交前に接種した方が予防効果が高いことと、ワク

チンに対する免疫反応が思春期では特によいことがあげられます。

そのような経緯でその後急速に接種が普及したのですが、報道などでご存じの方も多いと思いますが、ごく稀ではあります。重い副反応で苦しむ方がいることがわかり、厚生労働省から積極的接種は勧めないとの通知が発表されました。そのため現在また接種の普及が停滞している状況になっています。主に中学生に接種する場合、実際まだ本人の意思というより保護者の方の意向が優先されると思いますので、どうしたらいいか戸惑っている方も多いことと推測します。早く副反応の調査が進み、詳細が公表され接種を受ける方ならびに保護者の方々が十分納得して受けていただけることができるようになることを願っています。今後もし接種が順調に進んでいけば、諸外国の例を見ますと、近い将来子宮頸癌はそのほとんどが予防できる癌になるのではないかと期待しています。

ただ、以上の恩恵が実現するのはまだ少し先の話であって、現在のところ定期的な検診による早期発見、早期治療が重要なことは言うまでもありません。一般に癌検診の目的は早期発見により完治が可能になり、その病気で命を失わないということにあります。もちろん子宮頸癌もその例外ではありません。



せんが、早期発見にはもうひとつ大きなメリットがあります。一般に早期に発見できた場合外科的治療が選択されますが、早期であればあるほど切除範囲の縮小が可能となります。すなわち悪い部分だけ摘出して子宮、卵巣を温存することも可能となり、妊娠、出産する能力、専門的な表現で妊孕力(にんごうりょく)といいますが、それを維持することができるようになります。現代はライフスタイルの変化により晩婚化が進み、出産年齢も上昇傾向にありますので、早期発見はそういった意味でも女性にとつて福音になると考えられます。また冒頭でも述べましたように子宮頸癌は性交渉により伝播するウイルスが原因ですので、20歳代の方でも異常が発見されることは決して珍しくありません。そのような方が比較的長い時間を経て進行すると考えられていますので、好発年齢である中高年の方よりも、若い方にも積極的に検診を受けていただけたらと思います。

通所リハビリテーションに行ってみませんか？

社会医療法人全仁会

倉敷老健通所リハビリテーション

作業療法科

永野真理子

高齢になるとふとしたきつかけで、体調を崩したり、心身の機能が衰えたりして、日常生活に不便や困難を抱える方がいらっしゃいます。病气やけがで入院生活を送った後自宅に戻ってみると、これまでできていたことが、難しくなっていたということも珍しくありません。

そんな時にご利用して頂きたいのが通所リハビリテーション(デイケア)です。通所リハビリテーションとは、病院や介護老人保健施設といった施設に日帰り通い、リハビリテーションやレクリエーションを通じて、身体機能や認知機能の維持・回復、閉じこもりの防止を図るものです。また、食事や入浴、排泄介助、送迎などのサービスもあり要介護者を抱える家族の負担の軽減にも役立ちます。

高年齢になるとふとしたきつかけで、体調を崩したり、心身の機能が衰えたりして、日常生活に不便や困難を抱える方がいらっしゃいます。病气やけがで入院生活を送った後自宅に戻ってみると、これまでできていたことが、難しくなっていたということも珍しくありません。そんな時にご利用して頂きたいのが通所リハビリテーション(デイケア)です。通所リハビリテーションとは、病院や介護老人保健施設といった施設に日帰り通い、リハビリテーションやレクリエーションを通じて、身体機能や認知機能の維持・回復、閉じこもりの防止を図るものです。また、食事や入浴、排泄介助、送迎などのサービスもあり要介護者を抱える家族の負担の軽減にも役立ちます。

超簡単！ 家庭でできる運動のすすめ

せつしょく えんげしょうがい
摂食・嚥下障害(飲み込みの障害)

倉敷平成病院 リハビリテーション部 言語聴覚療法課長 藤本 憲正

前回の飲み込みの運動はお口、特に頬と唇(顔)の運動でした。わかりましたか？絵があればよいのですが、紙面の都合上、文字だけになることをご了承下さい。

今回は舌のトレーニングを紹介します。

～舌の体操～ 各々5回ゆっくりと

- ①舌を出したり引っ込めたり運動
*この時、舌を出す時は唇を越して下さい。
- ②舌を出して左右に動かす運動
*左右に動かす時には、顎や顔は動かさないで下さい。
- ③上唇を舌でなめる運動
*ペロを車のワイパーのように動かして

舌は、食事を喉に送り込むために必要な器官です。いかがでしたか？スムーズにできましたか？次回は発声を使ったトレーニングの紹介です。

は定員180名と岡山県下最大で、日常生活が自立されている方から認知症を有し介助が必要な方まで幅広い方にご利用頂いています。可能な限り在宅において自立した生活を送っていただけるよう、転倒予防から運動機能向上・生きがいづくりまで、

専門のスタッフがご利用者の方それぞれの能力に合わせたプログラムでお手伝いいたします。
【お問合せ先】
倉敷老健通所リハビリテーション
TEL・086-427-1192